夕刊　常磐新聞

六月二十三日

發行兼編輯印刷人　伊藤隆次
福島縣平南町五九　發行所　常磐新聞社
日曜祭日翌日休刊
一部二錢　一ヶ月五十錢
廣告料　一行　五十錢

本社　小名濱町古港一
◆支局所在地◆
平町材木町二〇
四倉町停車場通り
湯本町新校舍前
植田町壽町

常磐時評

誠意を賣つて生きよ。

處世の要諦は誠意より出發しなければならぬ、例へばその仕事が不結果であらうと又は少し位の缺陷があるにしても誠意の過ちであれば、敢て悔ゆる事がないと思ふ、これは良き一ッの體驗であり良心的に苛責されないからである、不義にして成らんより是にして破れた方が心がサッパリして目曜がよい、不義にして百万の富を得たとて良心的に苦しむとすれば衣食住足つたとするも不要であり、後世が怖しく佛敎で云ふ因果應報を考へた時に、惡の酬ひを子孫の上に掛るとすれば、その人の心は常に曇天の樣に晴々とした氣分になれぬ、正しく精一杯に働く人は常に明朗である從つて家庭は圓滿である、不義は必らず惱がつきぬもの故に陰慘なる心根が面に現れ家庭は暗鬱である、爲めに快を外に求める、斯く對照した時に誠意は生き道であり大成の第一段階とすべきでもあらう。

●●●●●●●●●●●●●●

親分の威光で立場を得る奴は氣の毒。

自己の實力を磨く事を忘れて親分の金玉を握る事にのみ腐心して立場を贏得ようとする奴は馬鹿の骨頂だ常にソワ〲として落付きがなく氣配を見る事にのみ沒頭し猫の子までも親分の前では鄭重にしなければならぬ、こんな男になると誤つて婢の前でも親分に接する奥の手が出て輕視される事がある、こう云ふ奴には俠義的氣魂を有する蠻者の尻でも嘗めさせたくなる、男子須らく福澤翁の敎を垂れた獨立自尊の氣風を養ひ實力に依つて實力丈けの金を得る、而して媚を賣りて生きるなどの腐れ娼婦の如き態度は昭和維新を背負ふて立つべき人々には大いに反省三省すべき事柄である

植田春繭初取引開始
ガ然賣手の豫想を裏切り
五圓臺を割り高値四圓八十錢
御祝儀景氣もなく人氣薄

植田繭市場の初取引は廿日開市される豫定で、遠く群馬縣方面から多數の買手が集まつたが、當日の出廻り百五十貫を繞つて賣手は五圓十錢を唱へ買手側は四圓九十錢以上は買へぬと、頑張り遂に取引不成立に終り廿一日に延期されたが當日は水口製糸及丸一製糸等の來場あり、午後一時より初取引を開始したが、御祝儀氣分もなく賣手の豫想五圓台を割つて高値四圓八十錢で取引された、尙同市場は今年から私設勿來市場を合併したゝめ今後の取引高は一萬五千貫を豫想されてゐる。

高値　四八〇　安値　四五〇　買馴　四六四　掛目　三六　出廻り　四五〇

炭界明朗色

十ヶ年一服の藥も服用しない健康者表彰
從業員慰安運動會
古河炭礦の嬉しいプロ

その一

古河炭礦鑛業所では健康課を組織以來最早十年を經過するが年々礦務に從事する男女從業員は一ヶ年平均一千百名餘であるが此處十ヶ年一包の藥だに口に入れない者八名、九年間十四名八年間廿四名、計四十六名の健康狀態を調査近日中に表彰する事になつた

その二

古河炭礦では廿二日の一般從業員の公休日に從事員慰安の爲め夜間は屋外活動寫眞大會、晝間は運動會の意味で從業員希望者の遠足を決行、午前八時出發、高久村を經て豊間村鹽屋崎燈臺を見學歸礦（人員百五十名するが引率者は小林修學務人事係である

植田町 町政審議會
來月初旬 發會式擧行

植田町會は十九日左の如き協議事項を決議した。

一、植田町政審議會發會式擧行に關するの件
一、國道改修の件
一、小濱築港促進に關するの件
一、勿來久之濱間國道を當町は舊國道を廢し新國道を建議するの件

等で町政審議會委員は左の通りである

植田町長、町會議員、驛長島田竹松、小學校長鈴木佐忠、實業學校長吉田正愛、植田警察署長、大野土木監督出張所主任、渡邊德之助、辻文藏、金成金藏、植田電氣會社成清末吉の諸氏で來る七月一日頃發會式を擧行する筈。

ぐん〲下る氣溫
稀有の天体異變で
小名濱測候所の氣象觀測

『百萬圓の二分間』として全世界の天文學者を總動員した〃黑い太陽〃觀測は郡下のアマチュア天文學者もいぶしガラス等を速製待機させたが遺憾ながら曇天に災されて一般ファンを失望させた尙小名濱測候所の觀測左の如し

本日當地の日食觀測には體地上兩用カリスト號望遠鏡にて準備を整へたれど生憎朝來よりの海霧濃厚にして時に消散したる際、雲の切れ間より僅に太陽を眺められる程度にして、甚敷觀測心を殺るゝ事夥しくあつたが、是れすらも午後二時頃より高霧に襲れて當地の初虧二時十八分廿二秒には全く雲霧の裡にて其後食甚天三時卅一分十一秒は勿論復圓に到るも晴れず、遂に太陽を見る事が出來なかつた名古屋以西仙台以北は天候も良好にて觀測も出來た樣子あれど、名古屋仙台間は天氣惡く何れも雲霧の裡にて觀測は不可能であつた俗望遠鏡は不用に歸したるも氣象觀測には一府馬力を懸けて正午より一時間毎に午後二時より午後四時までは廿分毎に臨時觀測を行つた處、全般的には今後の調査を待つのであるが特に判然した事は氣溫と地溫とであつた、氣溫は初虧後次第に降下して食甚前後最低となり、其の差二度三分に達したるが食甚後は次第に上昇した、地溫は午後二時四十分より次第に下降した是れは食甚後も恢復せず遂に其儘下降の一路を辿つた。

水道視察一行
搦釜より廿五日來平

宮城縣搦釜町の水道委員町長以下一行は來る廿五日先進地平町の水道施設視察に來平する。

飯野校增築
工費三萬圓
八月上旬着工

飯野小學校では兒童の激增に依り校舍の狹隘を告げて居た爲め此程工費三萬圓で八月上旬着工、十二月完成の豫定で增築する事になつた。

百余圓携帶犯人
某洋品店で學生に變裝
高飛びの一歩前で
平署室井刑事に檢擧さる

上遠野村黑田トラック業馬上遠夫方雇運轉者馬上正夫佐藤新と大沼郡玉路村生れ助手長谷川友江（二四）の三名は生繭を滿載平町月見町片倉製糸工場に向ふ途中同村某より『平町一丁目市原森馬方より木炭の代金百餘圓を受取つて來てくれ』と賴まれ來た爲め馬上、佐藤が平縣社下某飮食店にて晝食中に助手長谷川に取つて來る樣言つけた處二時間たつても來ないので、不思議に思ひ市原方に來て見れば現金七十二圓十五錢と三十圓の七十七銀行拂出の小切手とを渡した、との事で兩名驚愕密行中の室井刑事に依賴捜査廿二日午前二時三丁目川端通り第一新橋附近を徘徊中の擧動不審の男を取調べると同犯人で有る事を自白したが湯本まで貸切を雇つて居た爲め一歩逮捕が遲れば高飛びされる危機一發と言ふ處で檢擧されたものである。

色街徘徊中の男
擧動不審で署まで一寸來い
主家二軒を荒した恩知らず

東京市澁谷區隱田川町二丁目二ノ四五七生れ澤田七藏（三二）は昨夜十一時頃、湯本町の花柳街矢吹地內を徘徊中、平署員に擧動不審で取調べられた、同人は去る四月中間町福井龜吉方に雇はれ中、家人の隙を窺いて西洋タンスの中から現金百十圓在中の蟇口を窃取逃走した後また〲板橋區練馬南町オートバイ業宮崎仲次郎方に住み込み今月十五日夜電氣器具と現金廿三圓を搔つ攫つて逃走廿一日湯本町に潜入したもので、平署で余罪追求中。

小名濱壯丁檢查
二十二、二十三日
人員百十一名

小名濱徵兵檢査は六月二十二日、二十三日の兩日で總人員百十一名二十二日はマントし式反應注射、學術調査二十三日身體檢査の順序で施了さる。

學校衛生會

縣下各學校衛生會總會は來七月七日磐城高女新講堂で各校々醫出席開催される。

入山對內務省
兩强豪待望の一戰
昨日小名濱校々庭で

小名濱町野球ファンを狂喜させた入山チーム對內務省チームの野球試合は、いよ〲廿一日午後三時より小名濱小學校々庭で擧行された、入山軍は地方球界最高水準をゆく猛者揃へで過般の都市對抗豫選に福鐵に玉碎されたとは云ひ淺妻方面のバッテリー健棒好守を誇るスタープレーヤー揃へで內務省チーム如何に戰ふかが興味の焦點であり且絕好の試金石であつた、內務省チームのメンバー左の如し

平淵森永石松上戶上
大花　富釜小馬光最
（投）（捕）（一）（二）（三）（遊）（左）（中）（右）

果實の産地
ボッ〲植付開始

郡下の梨、桃の最高生産を目指して精進中の赤井村では果實類の袋掛に忙殺されて居た爲め、田植も他地方より一週間以上おくれてゐるが此程袋掛も一段落したので、昨廿一日頃よりボッ〲開始された。

慰安映畫大會
品川白煉瓦赤井工場

品川白煉瓦赤井礦業所では廿日午後五時より職工慰安の爲め無料活動寫眞大會を同工場內で開催される。

ペンの足

千葉縣那可郡九重村生れ世界の浪人石井放外（四九）氏は近日仙臺放送局より諸國漫遊談を放送すべく仙臺に向ふ途中ヒョッコリ平町に廿二日現れた、同氏は意に決する處あつて大正五年より昭和五年まで二度世界を漫遊して昭和六年三度世界各地を放浪、昨年暮歸國したが前後廿一年間滿洲、シベリヤ、アフリカ、北南米の卅三ヶ國を無錢旅行して來たもので平に來た目的は町役場後援で小學校に於て講演會を催す爲である

『各國の風俗習慣など非常に面白いもので有るが今でも英領アフリカ、ザンチバン市の如きは黑人狩をして一ヶ年一萬九千人からの奴隷賣買の市が立ちます、そんな話をエチオピヤ手品と稱する獨特の手品をやりながら面白おかしく小學生達に聞せ喜ばせたい』

と童顏を綻ばせて異國の風景を眼前に書きながら語つた

花取りの兒溺死

平町鎌田町二仕立職日村勝彌次女孝（四）は廿一日午前十時半頃親戚の子と花取りに行き歸途叔父達の田植を見んものと、神谷村中神谷字藥師前地內小川堰筋に轉落三丁餘流れ可愛想にも溺死した。

電氣業者の反省と
町村會の活動

東部電力と合併したる大日本電力會社に對し第一、第三日曜休電を廢止、電燈電力値下、外二點に付改善を促し併せて受給町村自治体は須らく嚴重なる決議の下に會社側に對し其の實行を迫るの要あることを力說したるは、相當反響ありて內部的に話題となりたるも供給者側の意嚮として傳ひられたる所によれば、第一、第三、の日曜休電は全體にあらずして半休或は交互半休なり、電燈料に關しては値下の余地なしとするものゝ如きも未だ確たることは聞くを得ず、然し本紙の記事に前後して隣縣茨城縣にては全面的に縣を擧げて電燈、電力料金の値下運動開始したり需要家側に取り亦習性にて料金問題等は無益の努力と考へさせらるゝことと恰も煙草の割引を交渉することの如く「バット」の品切れに煙草商がツッケンどんなる挨拶を當然視する如く、芝居の切符一枚を購入すれば景品として敷島一個を添付する程原價の安きものに買入此一個十八錢を支拂ふに慣したるごとく一營利事業の暴利に訓練せられて居る現狀である、卽ち泣寢入りの現狀である然し需用家は一步進んで電燈、電力料の安價供給による一般生產費の減少が如何に一般民衆の幸福なるかに氣附かせられなくてはならぬ電燈料値下に至りては、大衆事業たる會社當然の責務として合併增大の橫暴を避け因て來る經費の節減を原價計算に換元すると同時に一般低金利に順應し、利益の側限を一般民衆の叫より先に官廳の命令に先行し改善を考慮する義務あるべし。本日の時事新報福島版によれば大日電、東電の合併慰勞金廿一万圓の分配一人當り七百圓と記載されて居るが官公吏夢にも耐ひ得ぬ福音と言ふべきなり、官公吏は盆、暮、婚葬、に商品切手一枚、悔厄の收受さへ處罰せらるゝ此に當り電氣會社員たる故に一人當り七百圓の慰勞金を此の世智辛き此世に受くるなどは誠に羨望の價値ある、然して官公吏との對照上不公平なる此種分配剩余金の如きが卽ち原價計算換元算出して、會社自ら電燈、電力料金低下に自發することが如何電氣業界に從事するものゝ最大義務にして、國家に對する途なることを考ふるものなり、一面需要家のために町村は一際の行動を取り以て會社側の反省實現の速ならむことを期すべきなり。

夏ノ流行洋品
麥一文字帽
パナマ帽子
冷味豊かな本年度新作品をあまた取揃へました……

春雨兼用絹傘
流行パラソル
に
ツルヤ
電一四〇

水產欄

水產利用振興協會

同組合の目的は水産物利用方法の改善、新規考案に關する助成並に試驗研究、各水産試驗所內の試製、試賣に對し財力と技術投資を協會が助成するのが目的で甲種會員は五十圓を納入する特種製品を引受け販賣せんとするものは、八百圓を納入すれば十名を限り七年間の專賣を獨占出來る仕込で會員に對しては利益の分配をなす事になつてゐる。

日本淡水漁業聯合會生る

滋賀縣水産組合長森幸太郎氏發起人となり、生れたのが淡水漁業聯合會で漁業と謂へば海洋のみ重點を置く今日、河沼地を生活の中心とする小漁業家の爲めに水質汚濁、干拓埋立、水力發電所等に依り踏にじられる漁場を擁護し發展を見るを以て目的とするものである

濱だより

六月廿一日　小名濱魚市場調査

魚名	魚發高	單價
かつお	四九五本	八〇—九〇
小とんぼ	九ケ	九五
平目	一五貫	一七〇—二〇〇
すずき	一〇貫	二〇〇—二二〇
あら	二五貫	一五〇
のどぐろ	三〇〇貫	七〇—六五
だぼ	一三〇貫	五五—六五
たら	三〇〇貫	三〇—三五
たなご	八〇貫	一〇〇—八五
いわし	二〇ケ	二、五〇

特報

出漁鰹船無電放送漁況
本縣船沖合漁況（廿一日）

船名	漁場	水溫	漁獲物	記事
榮福丸			八千尾	小名濱入港の豫定
盛厚丸	野島沖三百五〇浬	廿二度	四千尾	
福田丸	野島沖百浬	廿一度五		沖合漁場

沖合一般況漁

最多獲船　金星丸　野島東八十四浬　一万五千　一航海に二萬七千尾
最小獲船　　　　　　　　　　　　　一万二千　千尾
海順丸　野島沖東四分ノ一南三百八十浬　三度三分　八千尾

漆器と家具は
平町一丁目
和
和久井屋
電四〇五番

祝弔
造花を御求めになる時は是非技術有る新らしき品を御買求め願ひます
平四丁目局通り
電話五五〇番

造花問屋
山光堂
造花博士　花信

論叢

冷害の東北を救ふの途（一）

默謠生

冷害の東北地方振興救濟策として興業電力の兩會社創立に決し近く創立總會開催の運びとなつた事は東北地方の爲め洵に同慶の至りであるが、今日迄發表せらたる目論見の內容を窺ふに消極に惰し兩社事業が救濟の目標を何れに重點を置くものか頗る曖昧なるかに見ゆる事は物足らぬ憾を深められる。

例へば兩社の事業が大衆に潤わざるの傾ありて、最も疲弊困憊の極に在りて救濟の要ある山間僻邑の地に及ぼさざるの嫌ある事も其一で果して振興と救濟の目的を遂げ得られ樣か頗る疑問とせざるを得ないものがある。

某內閣の時蠶業救濟の意味か目的か判らぬが兎に角農家の重要副業である蠶業救濟を名として生糸保證法なるものを設けて公定糸價の値下りに對し政府が保證して糸價の暴落を防止し以て蠶業家を保護すると云ふ譯であつて、眞向から之を見ると如何にも農家をも保護するかに思われたのであつたが其の結果は何うであらうか、悲しい我農民は一錢の保證も保護も救濟にも浴せず、財閥の傀儡となり終つて一億何千萬圓と云ふ大金を救濟する要のない財閥輩に利用せられた事は識者の均しく肩をひそめた事であつたらう。

今回の企ては其れとは異るものではあるが目的はやはり救濟であつて結果に於て同じ徹を履まねば幸である。東北救濟の起因は冷害に依る農民の窮乏を救ふ事が主眼である筈なのに其目論見に依れば單に硫安と石灰肥料の製造に止り敢て直接救濟の策を見出し得ず電力會社とても勿論單に電力の低廉供給と云ふに過ぎず今日の農家は電力の利用は極めて稀であつて僅かに十燭電灯一ッの需要者で之が低廉なる供給をなすと雖も極めて小額の差にして敢て救濟の目的に觸れるに至らざるべく大資本を擁して其擧げ得る救濟の目的は極めて微々たるものに終るのではなからうか、筆者は敢て其企てを無意味と云ふに非らざるも兩社の如く大掛りの企てを爲す以上今少し徹底したる普遍的の救濟施設を望むものである。

東北の冷害は人爲的には如何とも防止し得ざる事は云ふ迄もないが、冷害なるものは今に始めて襲つたものでなく、數十年數百年來此冷害は蒙りつゝ今日に至つたもので近頃の冷害でもなく近頃の發見でもないのである、然るに此根本の原因に對應した所の救濟策を確立せず、聊か間接的な事業會社を起して救濟せんとする事は山に入つて魚を求めるの感を想はせらる。

而して其半面に弊害の生ずる事も考慮せねばなるまい地方電力會社の如きは主に地方の僅かの資本に依つて經營せられ事業の大半は地方に依つて賄われて居るのであるが若し今回の如き大資本を擁したる電力會社が極めて低廉なる料金を以つて供給する時は、到底之と太刀打は不可能にして遂に營業不振か閉業の余義なきに至るべく、其結果極部的ながらも地方經濟の動搖を來すべく之等をも考慮すべきではなからうか。

敢て地方電力會社を擁護せよと叫ぶものに非らざるも辛ふじて投資したる地方資金の消散を虞れるのみである。

現在の地方電力會社の營業が獨占的なるが故に需要家が御得意であるといふ觀念を忘れ極めて橫暴不遜で不親切需要家たる、御得意の利益と云ふ事は微塵も考へざる我利々々政策には一般の非難の的となつて居るから救濟と云ふ目的よりは斯んな目的のため大いて歡迎はされようが、さらでだに業績の擧らざる地方電力會社の實狀を見るなれば寧ろ之をも救濟するの要なきや物事は總て一利一害は逃れざるものであるが目的の爲傍を顧みぬと云ふ事も聊か慘酷である。（續く）

小說　女鏡（をんなかゞみ）

鈴木要次郎作

【6】

霜月の廿三日。

もうそろ〳〵粉雪が降り初めようと、空模樣も鉛色に變つてきたので流石の廿三夜觀世音の夜祭りの人出も淋しかつた。

夫を亡くしたお梅は、君子と新聞紙の袋貼りをして淋しく暮しを立てゝ居たが今夜は久しぶりで夜業を休み、親子して長火鉢に寄つて睦しそうに話し合つてゐた。

それでも青白い電燈の光りに、お梅の生活に疲れた橫顏が、いかにも弱々しく浮んでみいた。夫の遺した借金の三百圓の手型に、後妻ともつかず、隱し女ともつかない、言はば樂しみの女としてと、執幼に言へ廻る虎三郎の要求を、どうしてよいか惱ましかつた。自分の亡くなつた姉の夫である人へ亡夫の借金の犧牲となつて人身御供のように思はれてつらかつたが、今の身分で三百圓を返金する事は出來ない。それをよく理解しながら言へ寄られると、お梅は全く昏迷に陷入るばかりであつた。夫が亡くなつてから五度も六度もきてほとんど捕ヨリの樣になつて、生きる爲めに、愛する君子の養育の爲めに、操の香を靡かせぬばならぬような破目にひきづられてゆく自分の姿を、近頃はあじけなく考へる日が續いた。

サラ〳〵と小雪は硝子戶を叩き初めた。

「今晩は御免下さい」。

「オヤ誰れでせう」。

不意の夜の來客、しかも女の聲、お梅は、ツト立ち上ると同時に、カラ〳〵と戶があかる音。一人の粹な藝者が美しい顏をキックリと浮ばしてゐた。

「御免ンなさい、竹田の奧さん、今晩は」。

「エー。

お忘れで御座いますが、小名濱の小野初枝です」。

女は白い顏に、金齒をキラ〳〵光らして笑つた。

「まア初枝さんかい、隨分變つたので、ついおみそれして、サアどうぞお上り下さい。

「では御免ねい」。

お君は、夜の女の客を珍らしそうに迎いたトタン。〆吉の顏をみるより

「マア姐さん」

と走り寄つた。

「君ちやんかい」。

二人は、手と手を握りしめた。お梅は、呆れたように、二人を見守るのであつた。

文藝

ジョンを想ふ

茨城　東雲生

四

其の頃僕は東の
都に學ぶ喜びを
銀のボタンにきらめかせ
伊達者を氣取る空虛者

五

其れとは知らずあこがれの
空に飛んでたジョンの身が
僕を迎へる喜びを
精一杯に傾むけて
篠降る雨の最中など
良く來て呉れた面影よ

六

忘れ難かりあゝ其の日
何處までも青い空でした
ジョンの尻尾の輕々と
畦から畦を飛ぶさまや
忘れ難かりあゝ其の日

七

綠が空を蔽へる日
土堤の柳に靑空の
主が微笑を振り撒いて
歡迎して呉れたあゝ其の日

八

先になり又あとになり
突喊の聲も勇ましく
玄關口に飛び込めば
僕は元氣なジョンですか
お歸んなさいと莞爾やかに
エプロンの揉手しとやかな
姉さんの今日の涼しさに
ちらと浮かんだ憂ひの火

九

燃えて行く火の果ていづこ
さりとは僕も知らなんだ
さりとはジョンも知らなんだ
燃えて行く火の擴がりに
不可抗力の彈丸あられ

野口先生寄贈鯉のぼり
感激學生奮起の歌

一、氣を張れ氣を張れ
滿まるく
大敵のまん
鯉の口（野口）
ほまれは高し
のぼりざほ

二、弱氣を飛せ
吹き流し
散りても淸き山櫻
大和なでしこ
花がさく（サク）

時想

狂夢

歳日流れて進む春の宵
呼々我れ何を想ふ
拔山の氣慨發く紅に
燃る男子の意氣
呼々我躍血に泣く
涙ヌグイドモ更に消ひづ
眼下開けて唯人界を眺む
成すべき事更に多し
動くべき所更に多し
男子五尺何を睡す
飛べよ飛べ
快心の天涯に
唯自輝のバラ一輪を抱いて

俳句

山茶花にしぐれそめたる畫下り　五城

芋五合大汁鍋の底にあり
芋買うて臺所から上りけり　四方太

晴れ曇る五月の空を鯉のぼり　蠻寅

雨はれて昌蒲の七を鯉のぼり　二香葉

電話四百五十七番
白土屋 米穀 たばこ 商店
馬目英三郎
福島縣平町二丁目銀座通り

親切第一
客室完備
旅館 松葉館
館主 井上すゑ乃
福島縣平町材木町

御料理旅館 若松屋
常磐線植田驛前
電話五十三番
ワカマツ食堂

手打うどん きそば 相馬屋
植田町金畑

耳鼻咽喉科專問
高柳耳鼻咽喉科醫院
院長 醫學博士 高柳博明
入院應需 平町驛前 【電話三三六番】

▼移轉御披露▲
人物風景 御寫眞 鈴木寫眞館
新舊 小名濱町中島郵便局東隣
小名濱町中島通り

看護婦派出婦のお需めに應じます
平看護婦會
電話三〇七番

すが〳〵しい新春の山野
明朗な初夏の太陽！
清新滿ちる『みのり』
共に皆樣のお心を和らげます
カエエー みのり

御旅館 御料理 吉田屋 本館 別館
小名濱町
電話十四番

内臓外科 一般外科 レントゲン科
北川外科
平町新川町（諸橋醫院跡）
醫學博士 北川芳夫
（血液檢査毎日）イツデモ入院デキマス
小林良次
電話四六四番

一足先きに初夏氣分に浸るには——
櫻花とは趣きを替いた牡丹の味——
カフエー ホーライ
小名濱町

鮮魚仕出し 委託問屋 尓魚庄
植田本町通り

自動車修繕 並塗替 ボテー製作
栗田工場
常磐線植田驛前

ダッチ シボレー オフード 部分品 附屬品
植田安全商會
常磐線植田町

御料理 待合 末よし
植田町本町

●和洋食堂 出前迅速
安くてうまい……季節たべ物
●各國洋酒類!!! 金拾錢均一
●是非一度御試し下さい
滿洲バー
湯本町東町

吳服類は……
樋口吳服店
小名濱町中島通り

清新の氣に充ちた
カフエー ヤスベー
辨天横町

内科・外科（内臓外科 整形外科）
花柳病科・皮膚科
泌尿器科
小名濱町仲町
石井醫院
電話十八番

夏初
新裝なつた
松の壽し
平驛前通 電一九六
食堂に御座敷に ゼヒ

廣告の御命は
廣範圍に配布する
常磐新聞へ

五月節句
かしわもち用
米のこな（こめ）
一舛廿六錢
もち米の粉（こめこな）
一舛三十六錢
平町士橋（ドバシ）
マルマン
電話四八九（ヨヤク）